

.....「史料紹介コーナー」.....

平成27年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{よない} ^{みつまさ} 米内 光政 1880~1948年 》
 —岩手県出身の海軍大将—



駐在任務に関する定期報告 (登録番号: 外駐員報-T3-9-53)

米内光政大将は、明治34年12月、海軍兵学校(29期)を卒業後、横須賀鎮守府司令長官、連合艦隊司令長官兼第1艦隊司令長官の他、2度の海軍大臣と第37代内閣総理大臣を務めています。この史料は、大正4年2月から大正6年4月まで、ロシア大使館付駐在武官補佐官であった米内少佐が、海軍次官鈴木貫太郎少将に報告した「駐在任務ニ関スル定期報告」です。米内少佐が赴任した前年の7月に第一次世界大戦が勃発し、帰国の年の3月にはロシアで2月革命が起こっています。ロシア駐在員監督官鈴木乙免中佐の報告(大正4年7月1日付)によれば、「米内海軍少佐ハ露語ノ進歩著シク其ノ勤勉ナルト進歩ノ状況トハ露語教師ヲ驚カシツツアリ体格優健ニシテ異境ノ風土ニ堪ヘ在留邦人間ノ気受ケモ良好ナリ人選宜シキヲ得タリト認ム」と賞賛しています。



支那事変機密記録 (登録番号: ②戦史-支那事変-159)

この史料は、軍令部が日録的に執筆した「支那事変機密記録」(昭和12年7月~8月)で、支那事変初期の米内海相や軍令部の対応を知ることができます。例えば昭和12年7月11日の五相会議で、陸軍から要求があった北支派兵について、「始メ首相、外相、蔵相ハ派兵ニ同意ヲ渋リシモ五、五〇〇名ノ將兵ヲ見殺シニスルニ忍ビズトナシ同意セリ」、ただし米内海相は、陸軍の派兵は「全面的作戰トナルコトヲ考慮スルヲ要ス」、「動員派兵不必要トナリタル場合如何」と杉山元陸相に迫り、第一次上海事変で、第14師団を停戦協定成立後に派兵した前例を挙げて確認したところ、杉山から「斯クノ如キ事ヲ為サズ」との言質をとりました。「本件統帥事項ニ属スルモ念ノ為聞キ止メオケリ」とされた派兵取り止めの件は、その直後の動員派兵を中止させることになりました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影こともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>